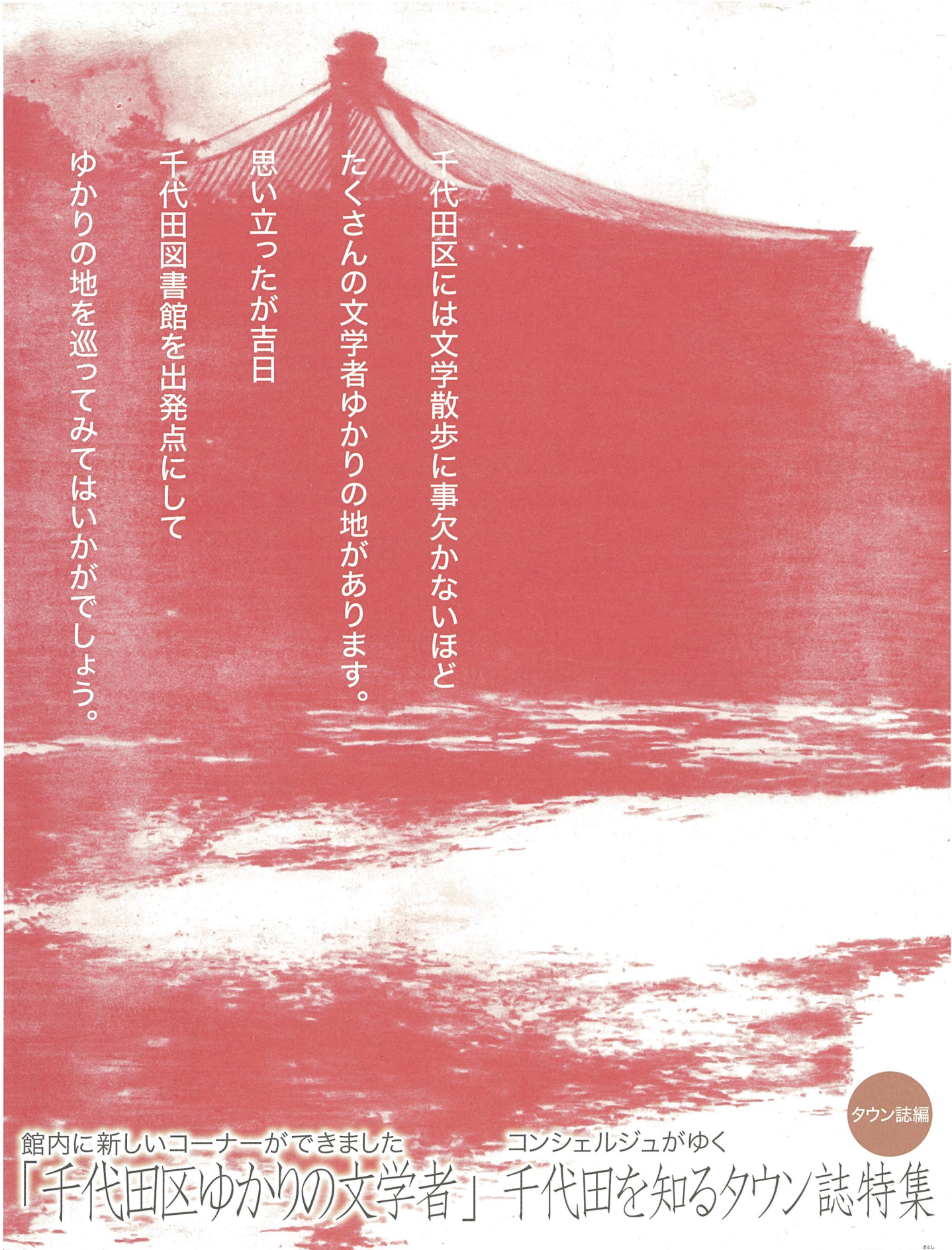


千代田図書館

千代田区立
千代田図書館
情報誌

さあ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ
あ	あ	あ	あ	あ

vol.6



千代田区には文学散歩に事欠かないほど
たくさんの方文学者ゆかりの地があります。
思い立ったが吉日
千代田図書館を出発点にして
ゆかりの地を巡ってみてはいかがでしょう。

タウン誌編

館内に新しいコーナーができました

コンシェルジュがゆく

「千代田区ゆかりの文学者」千代田を知るタウン誌特集

表紙 小川 哲

千代田探し

さまざまな分野で活躍中の
“千代田人”に聞きました

文筆家 **八木沢里志** さん

やぎさわさとし
文筆家 **八木沢里志**

1977年生まれ。日本大学芸術学部卒。神保町の古書店を舞台にした「森崎書店の日々」で第3回ちよだ文学賞を受賞。同作品は映画化されることが決定し(年内公開予定)、それに合わせ書籍化される予定。



神保町を舞台にした作品で「第3回ちよだ文学賞」の大賞を受賞した八木沢さんは、もちろん神保町古書店街が大好きで、しょっちゅう古書店巡りをしているそうです。そんな八木沢さんが、本や読書への思いや、お気に入りの1冊について書いていただきました。

僕は無類の読書好きです。

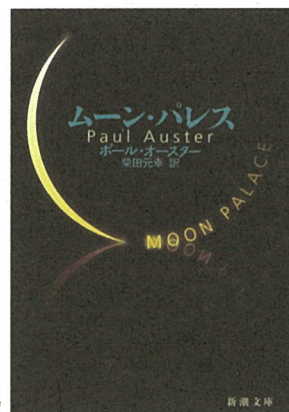
白状するとそんな本好きのせいで、困った癖というか、変質者めいた趣味があったりします。電車に乗っているときに同じ車両の乗客たちがどんな本を読んでいるのかすごく気になって、気も狂わんばかりになっちゃうのです。で、たまたま隣に座った人が文庫本を広げたりすると、思わず覗き込んでしまい、それがあまりに露骨すぎて同行者に注意される始末。けれど万が一、自分が好きな本だったりすると、ついつい後を付いていきたい衝動に駆られてしまって困っています。いや、困るのもおかしいですが。

それにしても、なぜ人は本を読むのでしょうか。はっきり言って、本なんて読まなくても生きていく上で困ることなんてほとんどないのではないのでしょうか。もし僕が訊ねられたら(いや、誰も訊いてくれないんだけど)、そこに世界の美しさや醜さ、そしてその手触りを感じることができるからだ、と答えます。そう、素晴らしい本との出会いは、僕にとっては人生をより豊かにしてくれるものなのです。もっと大げさに言えば、寄る辺なき人生という航路の先に輝く灯台なのです。僕は偏愛的趣向が強いため、たくさん本を読むというよりも、基本的に自分が大好きな小説を何度も読み直します。それらいままで出会ってきた物語は、確かな手触りとして、いまでも胸に残っています。そこには自己啓発本の箇条書きで記された答えなんかより、ずっとはっとさせられる世界があります。生産性など度外視した書き手の生の声(時には叫び)が、

そこにはこもっているからです。

僕にとって、ポール・オースターの『ムーン・パレス』という作品はそうしたお気に入りの本たちの中でも別格の存在です。この本は、主人公のマーコ・フォッグという青年が、たった一人の肉親であった伯父の死へのショックにより、一切の生産的活動をやめてしまうところからはじまります。彼は大学に行かず、仕事もせず、わずかな蓄えを食いつぶして生活し、ついには浮浪者となってニューヨークの街をさまよいます。しかもこれが物語の序盤で、そこから運命の女性によって救い出された彼は奇妙な人々と出会い、自らの出生の謎にまで到達するのです。いわば「魂の旅」の物語なわけですが、マーコが滑稽なまでに自らをさらけ出し、苦悩し、人生に向かっていく姿は何度読んでも胸に迫ってくるものがあり、20代前半に出会って以来、とても大切な一冊になっています。読まれたことがない方がいたら、ぜひ手に取ってみてほしいです。

これからもそうした素晴らしい本との出会いを求め、あくなき探求を続けていきたいです。そして誰かが出会って良かったと思ってくれるような物語を、自身でも生みだしていきたいです。ですから、電車の中で隣の乗客が読んでいる本を覗き込んでいる男を見かけても、そっとしておいてあげてください。たぶんそれは、僕です。



『ムーン・パレス』
ポール・オースター著 新潮文庫

新潮文庫



Check!

千代田は文学のまち！
千代田区ゆかりの文学者コーナーができました。

千代田区ゆかりの文学者コーナー

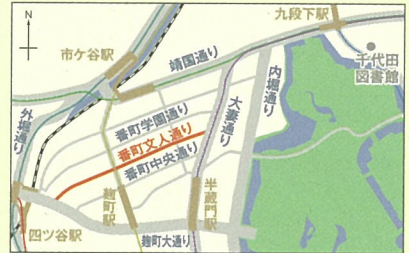
場所:千代田図書館9階 コンシェルジュブース脇の書架(棚番号24)

かつて番町・麹町界隈には、島崎藤村や泉鏡花、有島武郎など、著名な文学者や芸術家が暮らしていました。中でも多くの文化人が軒を連ねて生活していた「番町文人通り」を中心とする界隈には、「まちの記憶保存プレート」が設置され、その場所にゆかりのある文化人について知ることができます。千代田図書館では、そのように千代田区にゆかりのある文学者の作品を集めたコーナーを作りました。作品とともに、作家自身にも注目してみたいかがでしょう。(明治以降の物故者の作品を収集しています。)



番町文人通り

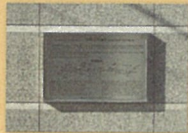
通称「番町文人通り」は全長約1キロ強。四ツ谷駅や千鳥ヶ淵にも近く、また、各所に「まちの記憶保存プレート」が設置されているので、現在に残っていない旧居跡などを巡るのにはぴったりです。事前に作家の自伝や著書、下記の「おすすめの資料」などを読むなどして、当時に思いを馳せながら、のんびりと歩いてみてくださいね。



千代田図書館から大妻通り側の「番町文人通り」入口まで徒歩約20分。

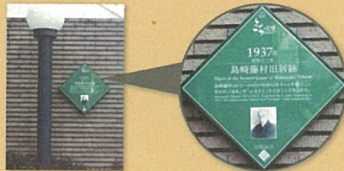


案内プレート



番町文人通り界隈の略図と、番町文人通り沿いに住んでいた文人たちのゆかりの場所14箇所が示されています。

まちの記憶保存プレート



赤色か緑色の菱形プレートです。本図では文学関連のプレートのみを紹介していますが、他にも「川喜多半泥子旧居跡」などが設置されていますので、歩きながら探してみてください。

- 1 島崎藤村旧居跡
- 2 泉鏡花旧居跡
- 3 有島武郎・有島生馬・里見弴旧居跡
- 4 菊池寛旧居跡
- 5 明治女学校跡
- 6 与謝野晶子・寛旧居跡(設置準備中)
- 7 網野菊旧居跡

おすすめの資料



『千代田まち事典』
千代田区民生活部



『番町麹町
「幻の文人町」を歩く』
新井巖 彩流社



『東京文学探訪
明治を見る、歩く 下』
井上謙 NHK出版

ちよだ文学賞

平成18年より、千代田区民生活部文化スポーツ課主催で「ちよだ文学賞」が開催されています。本誌の巻頭ページ「千代田探し」にご寄稿いただいた八木沢里志さんは、昨年の第3回大賞受賞者です。3月末には、第4回の大賞作品が発表されたばかり。今後も注目の作家が続々と誕生しそうな文学賞なので要チェックです！「ちよだ文学賞」はどなたでも応募できるので、我こそはと思う方は、ぜひご応募ください。



非売品



500円(税込)



500円(税込)

『ちよだ文学賞 作品集』
大賞作品のほかに優秀作品や最終候補作品等も収録されており、下記で販売しています。

販売場所:千代田区役所2F 区政情報センター
問合せ:千代田区民生活部文化スポーツ課
03-3264-2111(代表)



タウン誌で千代田区にもっと親しむ

タウン誌は、その街をより深く知る手段として最も身近で便利なアイテムです。千代田区の街案内をしている図書館コンシェルジュも情報収集に活用しています。蒔蓄たっぷりの面白エッセイや、街の風景写真など、情報満載で読みごたえがあります。無料配布の冊子は、各所で配布が終わったら入手しにくいものなので、出会ったときがチャンス!千代田図書館をはじめ、喫茶店やギャラリーなど様々な場所で配布されていますので、見かけたらぜひ手にとってみてくださいね。

かんだ

- 内容** 神田にまつわる人物伝、街歩き、映画館・美術館情報など
- 創刊年** 昭和37年
- 発行日** 3・6・9・12月末日発行
- 編集人** 池谷伊佐夫
- 発行人** 額額公夫
- 発行所** かんだ会
- 発行部数** 12,000部
- 配布場所** 区内を中心に約100ヶ所



お話を伺った人 見米精一さん
事務局長の見米さんも執筆を一部担当。「かんだ会」の名前が入ったオリジナル原稿用紙で作業をしています。

月刊 本の街

- 内容** 執筆陣約20人による寄稿文、アート情報、落語会・句会情報、店舗情報など
- 創刊年** 昭和55年
- 発行日** 毎月1回10日発行
- 発行編集** 清水勉
- 発行所** 本の街編集室
- 発行部数** 7,300部
- 配布場所** 区内を中心に約140ヶ所



お話を伺った人 清水勉さん
野球少年だった清水さんが文章を書くようになったのは、高校時代にお兄さんのすすめで俳句を始めたのがきっかけ。その後、お兄さんは芥川賞候補になるなど作家としても活躍。2人で出版社を立ち上げた時期もあったそうです。



創刊号(昭和37年9月30日発行)



197号(平成21年12月30日発行)



創刊号の中間



創刊号の中間



創刊号
(昭和55年10月10日発行)



No.353
(平成22年2月10日発行)

都内ではおそらく銀座百店会の『銀座百点』に次ぐ歴史のあるタウン誌で、今年9月発行予定の秋号で創刊50年を迎えます。この冊子の発行人は、現在のさくら通りにあった印刷会社「尚美堂」の2代目社長・田中貞三さんで、「一冊くらい神田をPRする本があってもいいじゃないか」と約150軒の会員を募って始めたそうです。現在は、編集を作家の池谷さん、集金などの事務を見米さん、そして発行を大屋書房3代目の額額さんが務めています。創刊号には、弁士や漫談家など多方面で活躍した徳川夢声やアンツル先生の愛称で親しまれた安藤鶴夫などの著名人が原稿を寄せています。また、刊行当初より実力派カメラマンによる写真がふんだんに掲載されており、それらの写真は近隣の企業が社史を作る際に、街の移り変わりを見るための資料としても活躍しているそうです。額額さんが発行人を引き継いだ平成11年からは、表紙に「江戸名勝図会」や「花競神田祭礼」など、大屋書房さんの貴重な資料を使用しており、歴史ある『かんだ』により一層の貫禄を持たせています。

『**本**の街』は、元々別会社が創刊したものを清水さんが25年前に引き継ぎ、現在は原稿の取り纏めや校正など、発行までの作業はもちろん、刷り上がった冊子を各配布場所へ持参することまでも全て1人でこなしています。引き継いだ当初、群馬県出身の清水さんが神田についての本を作ることは容易ではなかったのですが、清水さんの熱意と地道な営業活動によって、街にたくさんの協力者(加盟店)が増えました。現在では執筆者も多く、書きたい人が活躍できる場をつくることも『本の街』の使命であり、ここでの連載をきっかけに本を出版した執筆者が出てきたときには、編集者冥利に尽きるということです。また、新しくオープンした店や、裏通りにひっそりと佇む店など老舗以外の情報が多いのも特徴です。この街で商売する人は応援したいという、もはや“神田っ子”のような清水さんの心意気により、『本の街』は単なる情報誌にとどまらず、この街と文化が好きなたちの、温かな交流の場となっているようです。

? インフォメーション

お知らせ

●「出版にまつわる本棚」ができました。

千代田区は、出版社や書店・古書店などが多く集まる地域のため、千代田図書館では、出版関連の図書を一ヶ所にまとめたコーナー「出版にまつわる本棚」を設けました。出版の歴史や業界の概要を知りたいときに役立つ本をご紹介します。

場 所 = 9F 調査研究ゾーン

内 容 [出版 史] 出版の歴史、検閲・言語統制、出版と著作権

[出版 業] 出版社、出版業に関わる人物、編集・校正、紙・印刷、製本・装丁

[出版 流通] 取次・書店、古書・古書店、書評 [動向と展望]

※出版をテーマとするその他の本や、[雑誌][新聞][マスコミ][ジャーナリズム][読書]などに関する本は、区民の書斎ゾーンにあります。



●ブログで本や読書に関する情報を発信しています。

本や読書に関する情報をお伝えする「ちよびたブログ」を、千代田図書館を拠点に活動をしている「千代田区読書振興センター」が始めました。主に千代田区内のイベント情報や本に親しめる場所、本の紹介など、子ども向けから大人向けまで様々な情報を盛り込んで定期的にお届けします。

URL <http://chiyoda-dokusho.jp/blog/>



千代田区立図書館ホームページの、このアイコンをクリックしてください。



●「ちよびたメール」配信中

～新着図書やイベント・セミナー情報をメールでお知らせ～

興味のある分野・作家名などを登録しておくことで、登録内容に合う新着図書情報や、イベント・セミナー情報がメールで届きます。ホームページ内の「ご利用状況照会」から登録して、あなたにぴったりの条件をお選びください。

●行方不明の図書資料は941点でした。

昨年12月から1月にかけて、千代田区立図書館で蔵書点検を行ったところ、行方不明となっている図書資料は941点でした。この数は、他の地域の図書館と比べて大変少なく、皆さまの日頃のマナーに感謝するとともに、今後益々のご協力をお願い申し上げます。図書館の資料は皆様の財産ですので、貸出期限を過ぎた資料をお持ちの方は早急にご返却ください。

※すべての千代田区立図書館(室)で返却できます。

ご利用案内

■千代田図書館

03-5211-4289・4290

開館時間 [月～金]10:00～22:00

[土]10:00～19:00

[日・祝・12/29～12/31]10:00～17:00

休館日 第4日曜日/1月1日～1月3日/特別整理期間

■神田まちかど図書館

03-3256-6061

開館時間 [日～土]9:00～20:00

[12/29・30]9:00～17:00

休館日 第3日曜日/12月31日/

1月1日～1月3日/特別整理期間

■四番町図書館

03-3239-6357

開館時間 [月～金]9:00～20:00

[土]9:00～19:00

[日・祝・12/29・30]9:00～17:00

休館日 第1日曜日/12月31日/1月1日～1月3日/特別整理期間

■ちよだパークサイドプラザ区民図書室

03-3864-8931

開館時間 [月～土]9:00～19:00

[日・祝]9:00～17:00

休館日 第3日曜日/特別整理期間/年末年始

■昌平まちかど図書館

03-3251-5641

開館時間 [日～土]9:00～20:00

[12/29・30]9:00～17:00

休館日 第2日曜日/12月31日/

1月1日～1月3日/特別整理期間

■千代田区男女共同参画センター

MIW(ミュウ)情報ライブラリ

03-5211-8845

開館時間 [月～金]9:00～21:00

[土]9:00～17:00

休館日 日曜日/祝日/特別整理期間/年末年始

ご利用について

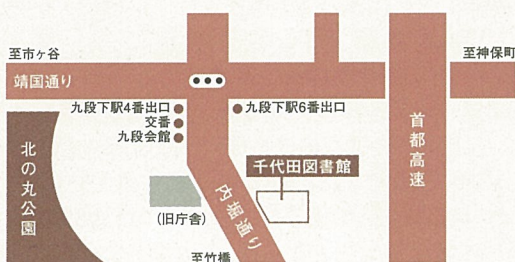
・千代田区内在住・在勤を問わず、どなたでもご利用になれます。図書などを借りるには、「貸出券」が必要です。

ご住所とお名前が確認できるもの(健康保険証、免許証、学生証など)をお持ちください。

・「貸出券」は千代田区内のすべての区立図書館(室)で共通です。

貸出数(全館合計)

	区内在住者	区外在住者	予約がない場合に限り、貸出期間内に1回のみ1週間延長することができます。返却期限の当日までにご連絡ください。
図書/紙芝居/雑誌	10冊2週間	5冊2週間	
CD	3点2週間	3点2週間	
DVD/ビデオ	2点2週間	2点2週間	



さあ、図書館にいこう。

千代田区立千代田図書館

〒102-8688 東京都千代田区九段南1-2-1 千代田区役所9・10F
TEL:03-5211-4289・4290

<http://www.library.chiyoda.tokyo.jp> <http://mobile.library.chiyoda.tokyo.jp>

アクセス 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営新宿線「九段下」駅下車4番または6番出口から徒歩5分



携帯に簡単アクセス

